

災害に強いまちづくりへ～牛久保安心・安全なまちづくり協議会～

牛久保地区は、豊川市の南部に位置し、牛久保城の城下町として形成され、明治になると、恵まれた立地特性等を背景に、「家具のまち」として広く知られ、また毎年4月に開催される若葉祭(うなごうじ祭)では、山車や笹踊りなどが催されるなど歴史・文化を色濃く受け継ぐ地区です。

このような歴史的な背景から、地区内には古くから残る木造住宅や幅員4m未満の狭い道路が多く、大規模地震時には建物倒壊による道路閉塞や火災の延焼など、被害の拡大が懸念されます。また、豊川市と豊橋技術科学大学が実施した調査においても、牛久保地区は地震に対する危険度が高い地区であることが明らかとなっています。そこで、平成27年7月に牛久保地区の住民で組織する「牛久保安心・安全なまちづくり協議会」を設立し、災害に強いまちづくりを進めています。



地域の課題を整理し、地震災害に対する「まちづくりの方向性」を定めました(H27～H28年度)

H27～28年度：住民目線でまちの現状・課題をまとめた「防災まち歩きマップ」、まちの将来像を描いた「牛久保安心・安全な防災まちづくり計画」を策定しました。

防災まち歩きマップ



牛久保安心・安全な防災まちづくり計画

主な取組み(H29年度～現在)

【防災訓練】R1年度に地元町内会と協力し防災訓練を実施しました。今後も訓練の定着や参加地域の拡大を図ります。



【ブロック塀の解消の呼びかけ】市の補助金を利用した危険なブロック塀の撤去・改修を呼び掛けています。

【狭い道路の拡幅への協力】災害時の避難路を確保するため市が行う狭い道路の拡幅に関し、地域に協力を呼び掛けています。